



敷地にも背後にも豊かな緑があるのが魅力の「風の荘」。後ろに見える木々は京都金閣寺の敷地内であって、そこから吹いてくる風は心地よく、夏には気温を下げる役割を果たす。縦長の窓は、軒の長さとうまく調整されており季節による太陽高度の変化にあわせて、夏の熱い直射日光は遮り、冬の日光は室内に招き入れるように設計されている

生活者ができる地球温暖化防止の現場から

日本で初めて実現した パウピオロギーの住まい

「風の荘」(ミエムツク)

人に優しく環境への負荷も少ない住宅

スイス発祥の「パウピオロギー」の考え方では、住む人の健康はもちろん、地球に対しても健康な住宅を目指している。このパウピオロギーを日本の気候・風土・慣習に合わせてアレンジした、日本で初めての『和のパウピオロギー』とも言えるべき住宅が、二〇〇七年五月、京都市の金閣寺に隣接した敷地に誕生したミエムツク



池に流れ込んでいる小川の端に置かれた手水鉢。池の水は、基本的には湧き水を貯めているが、浄化槽で浄化した生活排水もここから流し入れている

ナビゲーター
パウピオロギスト
一級建築士
渡邊公生



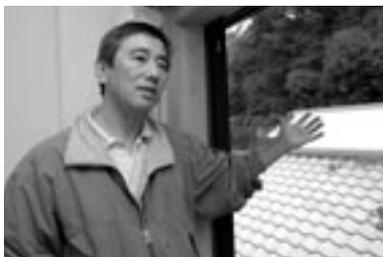
屋根の最上部に設けられた突起は、室内の熱を排出するのが目的。また、効率のいい太陽熱温水機も屋根に設置されている



壁や床には中に空気が移動できるドイツ発祥の「リグノ工法」とい、木質の複合パネルを使った工法を採用している。『呼吸する』壁や床が実現し、熱を自然にコントロールする。さらに耐久・耐震・耐火・遮音性が優れているだけでなく、ダニやカビの原因となる結露を防ぐなど、人体への悪影響を減らす効果もある



日が差し込むところには蓄熱素材のカーペットが敷かれ、その下には韓国産の熱をためることができるレンガが敷き詰められ、蓄熱効果を上げている



パウピオロギーについて熱く語るナビゲーターの渡邊氏。パウピオロギーの第一人者であるスイスのボスコ・ビューラーの日本人最初の弟子でもある



「風の荘」では、「生活水40%削減」を達成するため、独特の循環式水浄化システムがとられている。排出した生活用水はいったん各家の浄化槽で浄化し、それを敷地内の池に溜め、その池の水をポンプアップし、敷地内の小川へ流す。流れる過程で生物浄化の力を利用して、さらに水をきれいにする。その水をもう一度ガレージにあるタンクへ流し、そこでもう一度生物ろ過したうえで、トイレや洗濯に使うようにすることで、水の使用量も激減できる



ケイ・ワタベー級建築士事務所

〒603-8065 京都市北区上賀茂御園口町68-10
TEL 075-724-2425 FAX 075-724-2426
URL <http://www.k-watabe.com/>

「風の荘」の「風の荘」である。

金閣寺から徒歩数分の位置にありながらも、観光客の喧噪もほとんど聞こえない。千平米を超える敷地内には、現在は三棟の住宅が建てられており(将来的には五棟になる計画)、一部を除いて賃貸住宅として利用されている。

「全ての住宅が、人が健康に暮らせて、かつ建物の環境負荷を減らす」というパウピオロギーの原則に基づいて建設されています」と設計者でありパウピオロギストでもある渡邊公生さんは説明する。

「風の荘」の住戸の最大の特徴は、基本的に冷暖房設備が設けられていないということ。そして、渡邊さん自身が化学物質アレルギーであることから、人体への影響を考えると基本的に国産の無垢の木材を使うなど建築素材の選択には細心の注意を払っているという点だ。

「冷暖房ありきの生活が当たり前だ」という今の日本の住宅は人にも地球環境にも優しくありません。体温調整ができなくなったり、気管支炎やアトピーなどのアレルギーが発生したりする者が今の若者に多いのは、過剰な冷暖房の環境の中で育ってきたからでしょう」

そこで、「風の荘」では、外気温より低い池の空気を部屋に取り入れることで室温を下げる工夫を施すなど、冷暖房を可能な限り使わないで暮らせるように、さまざまな工夫がなされているという。

「住宅を計画する際は、その土地が持つ情報を検証し、それを最大限に生かす」という渡邊さん。このようなエコリッジがまちに点在するようになることで、まち全体がエコシカルに生まれ変わることができる。パウピオロギーはそうした大きな可能性を秘めている。

(文責・CEL編集室)

